

サポートツール全国キャラバン2010「教材教具研修会」in 岐阜

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2010年11月21日

ソフトピアジャパンセンター センタービル10F 大会議室

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：岐阜県LD親の会「れんげの会」

【研修会開催趣旨】

特別支援教育が法律に基づいて本格的に実施されてから3年が経過し、LD等の発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の具体的方法が求められている。LD等発達障害がある子どもの特性は一人ひとり異なり、抱えている困難さも様々であり、学び方も違っている。こういった発達障害のある子どもたちに対し、教材をうまく利用して指導効果をあげている実践事例も数多く報告されてきたが、目の前の子どもに有効な指導法としてそのまま利用できる例は少ないのが現実である。

全国LD親の会では、文部科学省からの受託研究として、2006年度から2年間にわたり、発達障害児向けの教材・教具についてのデータを収集し、発達障害のある子ども達が持つ困難を体系的に分類して整理し、具体的に実証をしめして、「サポートツール・データベース」としてまとめた。

発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）

<http://www.jpald.net/research/index.html>

2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいる。

- 1、子どもの成長を見据えた長期的な視野にたったサポート
- 2、子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた支援に繋がる子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、身近な教材・教具を活用していく具体的な支援の普及を目的に研修会を開催している。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めている。

この教材教具研修会は、2009年11月1日新潟市、2010年2月21日佐賀市、2010年5月30日秋田市において順次開催しており、講演とワークショップというプログラムや具体的な指導方法の提案が大変好評で、開催後のそれぞれの地域活動に結びつき始めている。

今回の岐阜県大垣市での開催は、岐阜県LD親の会「れんげの会」が中心になって準備を進めてきた。学校現場で指導にあたる多くの小学校教員と岐阜県の作業療法士など多方面における専門家と連携し、LD等の発達障害がある児童生徒に対しての質の高い支援をおこなっていくためにも、身近な教材・教具を活用していく具体的なサポート例を提示する研修会を企画した。



【研修会開催要項】

日 時：2010年11月21日（日）10：00～16：30（9：30受付）
会 場：ソフトピアジャパンセンター センタービル10F 大会議室
〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地の7

プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

（特別支援教育士スーパーバイザー・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・
堺市特別支援教育専門家チーム・堺LD研究会・「コミ☆トレ」番組委員）

- 2、講演2 「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師 嶋谷 和之 氏

（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター・
大阪市更生療育センター作業療法士・大阪府作業療法士会発達部門副代表）

- 3、ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」



主 催：特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催：岐阜県LD親の会「れんげの会」

後 援：岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会、大垣市教育委員会、
一般社団法人日本LD学会、社団法人日本作業療法士協会、
日本感覚統合学会、岐阜県作業療法士会

事務局：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 パロール代々木415

TEL/FAX：03-6276-8985 E-MAIL：jimukyoku@jpald.net

URL：http://www.jpald.net/

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次の支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、様々な職種の方々の観点から講演が有効であったという感想であり、この講演を機会にそれぞれの場所でこどもの理解と有効な支援が広まっていけばということ改めて感じた。

◎ 保護者（れんげの会会員）

- ・問題行動には必ず理由・原因があるということが印象に残りました。我が子に対しても、今一度しっかりと観察してみたいと思います。
- ・事例がわかり易く聞きやすいお話で、指導にすぐ生かせるような内容だったと思います（小学校教員の保護者）
- ・とても分かりやすく参考になりました。自分の子をみていて、なるほどと思う事が多かったです。
- ・何故できないのか、どこに困っているのかの原因の見つけ方は、今までの見方とは違った指導をしていただけて良かったです。

◎保護者 その他

- ・具体的な事例をもとに、分かり易い解説でイメージしやすく、良く分かったし楽しんで聞いた。我が子がこの先つまずくと思われることもたくさん聞けた。もう少し詳しく聞きたいこともあり、時間が限られてしまったことが残念だった。

●教員 小学校

- ・講演の中で、特別支援教育を必要とする子たちがなぜ、そのように理解したのか（間違えたのか）を把握し、それに対するトレーニングをしていかななくてはならない、という言葉があり、とても印象に残りました。
- ・問題行動からその子がどこでつまずいているのか見つけ、そのつまずきにあった指導を具体的にわかりやすく説明していただけた。学校にいる子どもたちの様子を思い浮かべながら早速実践していきたいと思います。
- ・子どもの行動や様子に表れている事ばかりにとらわれなくて、その原因を探ることについて

新しい視点をいただきました。

●教員 中学校

- ・困り感から原因を考えてアプローチすることが大切であることがわかりました。
- ・非常に具体的でイメージを持ちやすかった。自分が担任している生徒をイメージしやすかった。どれだけの事例を扱い、自分の中でどれだけ蓄積していくのかがいかに大切なのか実感できた。医学的に診断を下せないが、グレーゾーンの子どもたちが実は一番大切であることを学ぶことが出来た。

●教員 特別支援学校

- ・二次障害を防いだり、改善していったりということはとても大切なことだと思います。しかし、問題が起こると、今起きている事だけに固執しがちです。原因を広い視野を持って保っていかねばならないという事を教えていただきました。
- ・“一つの困難さに対しても、タイプ（ADHD、広汎性）によって支援が異なる”
“学び方が違う→スモールステップでは解決できない” 目からウロコでした。

●教員 その他

- ・豊富な事例をもとに、具体的な支援方法・訓練方法、そのための教材を教えていただいたので大変わかりやすく、自分が行う指導に取り入れるイメージがわきやすくて、とても参考になりました。一人ひとりの特性（原因）を分析し、それに応じた効果的な教材についての研修会はめったに出会えないので、大変貴重な学ぶ機会をいただき感謝しています。（教育委員会）
- ・話の内容が例にならって具体的で大変わかりやすかった。様々な障がいの他に、その傾向がある子の特徴や支援の仕方もとても分かりやすかった。また、教材もたくさんあるんだと思い活用したいと思っている。（児童デイ・保育士）

☆作業療法士 医療

- ・OT現場（一般病院で発達障がいの子供のリハビリを担当していますが、狭い範囲での関わりになってしまい、現場での実情をあまり知らないため）では分からない現場での視点を学ぶことが出来、今後の臨床にとっても役立つと思いました。発想を転換させてくださった内容もあり、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

★その他

- ・事例を入れて説明されたので分かりやすかったです。見えていることにまどわされることなく、本質を見極めることの重要性がわかりました。（保健師）
- ・山田先生のお話は3回目になりますが、何度聞いても勉強になり、ハッと気づかされることがたくさんあります。特にお子さんの行動のつまずきの要因を探って、具体的な支援を提言していくという例をいくつか出していただき、とても参考になりました。子どものSOSやサインをキャッチしてあげられるよう頑張りたいと思います。（臨床心理士）
- ・具体的な現場での取り組みが経験豊富なお話として聴講することが出来ました。ややもするとLD・アスペ・ADHD・PDなどの用語が先行する昨今ですが、これからもこのような講演を要望します。（視覚機能トレーニングに係るオプトメトリスト）
- ・原因をしっかり探ることが大切だと改めてわかってよかったです。（療育施設の言語聴覚士）



「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

嶋谷 和之 日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター
大阪市更生療育センター 作業療法士
(社)大阪府作業療法士会 事業部発達部門副代表

ねらい

普段私たちは、何気なく姿勢を保ち、運動を行い、手を使って物や道具を扱っているが、これらはほとんど意識されることなく自動的に行っていることが多い。そのため、感覚運動機能を背景的な要因とする子どもの困難に気づきにくい、分析しにくいという場合も少なくない。

今回の研修のねらいは、以下の2点である。

- ・普段何気なく行っている活動を意識化し子どもの困難と重ね合わせることで、子どもを理解し手立てにつなげるきっかけとする。
 - ・すぐにできる物や道具の工夫で、子どもの活動がより行いやすくなることを知っていただく。
- また、感覚運動機能の観点からの子どもの見方を説明し、後で行う事例分析のワークにつなげることも目的とした。

内容

- ①作業療法士の視点について説明を行った。
- ②感覚運動機能について、以下の2点についてより具体的に説明した。
 - ・安定した姿勢が保証されて、効率よく手を使い物や道具を操作できることを説明した。
 - ・感覚情報は食物と同じように、人間が生きていく上で必要な栄養素であると捉えることも可能である。子どもに必要な感覚情報を、日常生活の中に溶け込むように提供していくという視点を説明した。
- ③大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」作業療法士からの提案から、「よくある相談」のいくつかを紹介し、困難の要因と手立ての例を説明した。紹介した「よくある相談」は、以下のとおりである。
 - ・姿勢の保持が難しい
 - ・筆圧が強すぎる、弱すぎる
 - ・食べこぼしが多い（箸がうまく使えない）
 - ・はさみや定規がうまく使えない。
 - ・なわとびができない。
- ④事例を通して子どもの困難、背景的な要因、手立てを具体的に説明した。
 - ・姿勢の保持に困難のある事例。低緊張に加えて、自分の身体の状態を把握しづらいことが背景的な要因。滑り止めシートを座面に敷くと臀部の前ずれは改善するも、左右への崩れに対しては改善が認めにくくハートリーフクッションが必要と考えられた。
 - ・椅子を動かすことが多く、座面の縁で座りたがる事例。圧や運動感覚の欲求が高いことが背景的な要因。感覚の欲求を満たすことができるよう座面にクッションを付けると安定して座ることができ、授業をより集中して受けることができた。
 - ・鉛筆がうまく持てず書き続けると疲れる事例。手指の巧緻性の未熟さと触覚の分かりにくさの

ために、三指では細い鉛筆をしっかり持つことができず、代償的に四指で力を入れて持っていることが背景的な要因。三角の鉛筆グリップを付けることで、鉛筆との接点が増え、鉛筆を捉えやすくなった結果、三指で鉛筆を持つことが可能となり疲れずに書くことが可能となった。

- ・指先で箸を操作できずクロス箸になり、何度もつまみ直しをしている事例。手指の巧緻性の未熟さが背景的な要因。子どもに応じた補助具をつけることで、指先で箸を操作しつまむことができるようになった。

⑤子どもが努力して物や道具の操作を行っている場合、出やすい運動のサインを説明した。このような反応を捉えることで、子どもの努力を認めることができること、過剰な負担をかけることがないような工夫や細かな段階付けにつながっていくことを説明した。

⑥教材教具を展示した。ちょっとした工夫で活動がより行いやすくなることを体験していただいた。

【展示物】

- ・斜面台
- ・ハートリーフクッション
- ・滑り止めシート
- ・滑り止めを貼った定規、分度器
- ・紙の下に滑り止めシートを敷くことで、コンパスが操作しやすくなる工夫例
- ・滑り止め加工した三角鉛筆
- ・太い三角鉛筆、色鉛筆
- ・各種の鉛筆グリップ
- ・自由樹脂で加工した鉛筆グリップ
- ・消えやすい消しゴム
- ・工夫を施した箸
- ・バネ付きのはさみ
- ・とび縄の工夫

参加していただいた方のアンケートを見ると、一人ひとりの特性に応じた環境設定の重要性、がんばりすぎず活動が成功するための工夫の大切さ、見えにくいつまりきに気づけるよう大人の感度を上げることなど、講演内容の重要なポイントがアンケートに書かれてあり、ご理解をいただけたのではないかと思います。子どもの理解と支援にあたっては、いろいろな視点で多角的に捉える必要があると考える。作業療法の視点が子どもの理解と支援にお役に立てることができれば幸いです。



ワークショップ 報告

研修会の参加申し込みが 100 名近くあったので、あらかじめ参加者を 9~10 名で[A]~[J]の 10 グループに分けた。教育関係者が多く、一つのグループに教育関係者が 5 人、作業療法士を含めた医療福祉関係者が 2~3 人、保護者が 2~3 人という構成になった。また、参加者が何グループか分かりやすいように、受付で渡す名札にあらかじめグループを明記しておいた。ワークの前には、どこに座るか一目で分かるように座席表を提示し、テーブルにもグループの記号の札を立てた

しかし、当日欠席の方や、講演のみで帰ってしまわれた方もあり、実際ワークショップに残ったのは 70 名だった。結局、1 グループが 7~9 人でのワークになった。人数が少なくなってしまったグループは、役員が入ったり、グループを合併させたりして調整をした。

ワークは、小学 1 年生の男子児童の事例をもとに、ビデオとノートやプリントなどの資料を見て、子どもの特性を想定し、支援を考えるという課題をみんなで行った。

最初に対象児のビデオを観た。通級指導教室で、セラピーボールやマットを使った運動や、ハサミを使った作業、漢字イラストカードを使った学習などの様子や、家で漢字練習をしているところの様子だった。

ワークの前の山田先生と嶋谷先生の講演で学んだことをもとに、各グループでビデオや資料を見ての気づきや支援策を出し合った。児童の姿勢が崩れがちな様子から、低緊張の問題や、書字の問題、プリントの落書きから集中や意欲の問題などが上がった。

グループで話し合うことで、一人では気付かなかったことも、いろいろな見方や考え方が出て来て参考になった。また、いろいろな立場の方と話すことで、いろいろな視点から見ることで大変勉強になったとの感想があった。

グループ討議の後、各グループ代表からの発表があり、その発表を嶋谷先生が、「姿勢・運動」「道具操作」「書くこと」「集中力・その他」という項目に分けて板書整理してくださった。一人の子の事例(ビデオや資料だけの情報)からでも、こんなにたくさんのことが読み取れるのだと改めて感じた。その子がどこでつまずき、どこで困っているのかを見極め、分析を丁寧にしていくことで具体的な支援方法が見えてくることがわかった。また、児童に関わる者の、気づきや見る目を養うことの重要性を感じた。そのためには、このような事例研を積み重ねていくことが必要だ。

グループ発表後に山田先生と嶋谷先生からの解説をいただいたが、教育者と作業療法士の両方の視点から児童の捉えや支援を考えていくことの重要性を感じた。書字の問題で、字を整えて書くこと一つをとっても、背景として低緊張の問題、姿勢保持の問題、指先のコントロール、力の加減の問題と密接に関係しているという視点を、今回の研修でもつことができた。

姿勢保持や書字の問題に対して、滑り止めシートや鉛筆ホルダーを利用することで、その困難さは軽減できる。また、低緊張を鍛えるために日常生活でできることのヒントも紹介していただいた。

最後の質疑応答の時間では、質問の児童の状態像からタイプ別に想定し、具体的な指導方法についての話をしていただいた。また、ワークの事例の保護者の方の感想や、日頃困っていることの話も聞くことができた。学校や家の日常生活での対応についても、具体的なアドバイスが聞けて参考になった。

全体を通して、具体的な支援方法、訓練方法、そのための教材を教えていただいたので、大変わかりやすく、とても有意義な研修会だった。このような研修会をまたやってほしいとの声がたくさんあり、実践的な内容の研修会を望んでいることを感じた。



【アンケートのまとめ】

【回収枚数】

(1) 保護者	れんげの会 会員	8枚	
	その他	5枚	
(2) 教員	幼稚園	1枚	
	小学校	22枚	
	中学校	5枚	
	特別支援学校	8枚	
	その他（教委など）	3枚	
(3) 作業療法士	医療	2枚	
	療育	3枚	
(4) その他		8枚	合計 65枚回収

【講演1について】

◎保護者 会員

- ・山田先生のお話はいつも興味深くわかりやすいです。
- ・具体的でとてもわかりやすかったです。これからどうしたら良いか見通しが立った。
- ・問題行動には必ず理由・原因があるところが印象に残りました。我が子に対しても、今一度しっかりと観察してみたいと思います。
- ・事例がわかり易く聞きやすいお話で、指導にすぐ生かせるような内容だったと思います（小学校教員の保護者）
- ・とても分かりやすく参考になりました。自分の子をみていて、なるほどと思う事が多かったです。
- ・何故できないのか、どこに困っているのかの原因の見つけ方は、今までの見方とは違った指導をしていただけて良かったです。

◎保護者 その他

- ・うちの子どもは年中なのですが、将来的に思いあたりそうな事例が多くあり、とても勉強になりました。
- ・具体的な事例をもとに、分かり易い解説でイメージしやすく、良く分かったし楽しんで聞いた。我が子がこの先つまずくと思われることもたくさん聞いた。もう少し詳しく聞きたいこともあり、時間が限られてしまったことが残念だった。
- ・特性を見る事の大切さがよくわかった。

●教員 幼稚園

- ・実際にやってみえる先生なので、具体的な話も入れてくださってとても良かったです。

●教員 小学校

- ・要因の原因分析をすることの大切さを改めて学びました。指導者側に専門知識が必要であると思いました。
- ・とても為になるお話になりました。実践してみようと思った所もいくつかあり、来れてよかったと思いました。
- ・本当にその子の特性をしっかりとらえて、ピンポイントで指導していかないといけないのだなど改めて思いました。もう一度、一人ひとりのための教材を考えていけたらと思いました。
- ・講演の中で、特別支援教育を必要とする子たちがなぜ、そのように理解したのか（間違えたのか）を把握し、それに対するトレーニングをしていかななくてはならない、という言葉があり、とても印

象に残りました。

- ・実践に根ざしたお話で、100%より得でした。
個の特性に応じた指導がいかにか大切にわかった。明日からの指導に役立てたい。
- ・問題行動からその子がどこでつまづいているのか見つけ、そのつまづきにあった指導を具体的にわかりやすく説明していただけた。学校にいる子どもたちの様子を思い浮かべながら早速実践していきたいと思います。
- ・子どもの行動や様子に表れている事ばかりにとらわれなくて、その原因を探るということについて新しい視点をいただきました。
- ・具体的な子どもの姿を思い浮かべながら聞くことができるとてもうれしかったです。
- ・つまづきのあるお子さんの課題はいろいろあります。私たちが見る目を持ち、試行錯誤しながらやっていけたらと思います。
- ・“すばらしい”の一言でした。瞬きする間もなく、もっともっと1例ずつ聞きたかったです。

●教員 中学校

- ・困り感から原因を考えてアプローチすることが大切であることがわかりました。
- ・非常に具体的でイメージを持ちやすかった。自分が担任している生徒をイメージしやすかった。
どれだけの事例を扱い、自分の中でどれだけ蓄積していくのかがいかに大切なのか実感できた。
医学的に診断を下せないが、グレーゾーンの子どもたちが実は一番大切であることを学ぶことが出来た。
- ・困った子どもの原因を見つけて、正しい指導をすれば改善するという話にたいへん納得しました。
教材の使い方を知らなければいくら与えても効果が上がらないのだとわかりました。生徒の顔を浮かべながら聞くことができました。もっともっとお話が聞きたかったです。
- ・様々な子ども達の特性に合わせた指導の手立てを教えていただき、早速明日から活用できることをありがたく思いました。
- ・指導の前に、様々な対象者の実態把握・分析が重要ということが実感できました。

●教員 特別支援学校

- ・実際に教育現場で生かしていけそうな教材の話がたくさん出てきてとても勉強になりました。
障害種によって対応の仕方等、今後使わせていただきたいと思います。
- ・タイプ別の話が聞け、また具体的な指導方法についての話も聞けて大変有意義だった。
- ・具体的な事例に沿って、こういう要因のある子にはこういった支援が必要であるという話がとても分かりやすく参考になりました。
- ・二次障害を防いだり、改善していったりということはとても大切なことだと思います。しかし、問題が起こると、今起きている事だけに固執しがちです。原因を広い視野を持って保っていかなければならないという事を教えていただきました。
- ・子どもをていねいに見る必要を改めて感じた。
- ・“一つの困難さに対しても、タイプ（ADHD、広汎性）によって支援が異なる”
“学び方が違う→スモールステップでは解決できない”目からウロコでした。
- ・子どものとらえ方が多角的でとても勉強になりました。

●教員 その他

- ・鋭い分析をしてピンポイントに具体的な支援をすることを教えていただきとても参考になりました。
- ・豊富な事例をもとに、具体的な支援方法・訓練方法、そのための教材を教えていただけたので大変わかりやすく、自分が行う指導に取り入れるイメージがわきやすくて、とても参考になりました。一人ひとりの特性（原因）を分析し、それに合った効果的な教材についての研修会はめったに出会えないので、大変貴重な学ぶ機会をいただき感謝しています。（教育委員）
- ・話の内容が例にならって具体的で大変わかりやすかった。様々な障がいの他に、その傾向がある子の特徴や支援の仕方もとてもわかりやすかった。また、教材もたくさんあるんだと思い活用したい

と思っている。(児童デイ・保育士)

☆作業療法士 医療

- ・OT現場(一般病院で発達障がいの子供のリハビリを担当していますが、狭い範囲での関わりになってしまい、現場での実情をあまり知らないため)では分からない現場での視点を学ぶことが出来、今後の臨床にとっても役立つと思いました。発想を転換させてくださった内容もあり、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

☆作業療法士 療育

- ・教員の方には良かったと思います。
- ・子どもの特性に合わせた指導が大切だという事を改めて感じました。背景にある問題を理解するヒントをたくさん学ぶことが出来ました。

★その他

- ・事例を入れて説明されたので分かりやすかったです。見えていることにまどわされることなく、本質を見極めることの重要性がわかりました。(保健師)
- ・山田先生のお話は3回目になりますが、何度聞いても勉強になり、ハッと気づかされることがたくさんあります。特にお子さんの行動のつまずきの要因を探って、具体的な支援を提言していくという例をいくつか出していただき、とても参考になりました。子どものSOSやサインをキャッチしてあげられるよう頑張りたいと思います。(臨床心理士)
- ・具体的な現場での取り組みが経験豊富なお話として聴講することが出来ました。ややもするとLD・アスペ・ADHD・PDDなどの用語が先行する昨今ですが、これからもこのような講演を要望します。(視知覚機能トレーニングに係るオプトメトリスト)
- ・原因をしっかりと探ることが大切だと改めてわかってよかったです。(療育施設の言語聴覚士)
- ・原因の探り方がとても勉強になりました。(理学療法士)

【講演2について】

◎保護者 会員

- ・一つの動作に、たくさんの動作が必要なのがわかりました。教材教具の販売もたくさんあるとよかったです。
- ・子どもの大変さがよく理解できました。いろいろな工夫が聞けて良かったです。
- ・少しの工夫で改善ができていてとてもびっくりしました。ぜひ試してみたいです。
- ・子どもが抱えている問題にはいろいろな理由があり、保護者がそれを理解することがとても大事だと思いました。
- ・作業療法を受けた事があるのですが、いろいろな工夫をすることは大事だなと思いました。
- ・作業療法の視点で普段の生活の中での困った感覚をとらえることができました。特に、教材教具の工夫は、学校での通常学級への取り入れもしていただきたいです。
- ・作業分析の視点がわかりやすく、事象の本当の原因へ目を向けることができる内容だったと思います。

◎保護者 一般

- ・鉛筆の筆圧、箸の持ち方で現在苦労しています。そのためとてもタイムリーなお話でした。早速、家庭で実践していきたいです。
 - ・本人の特性をいかした環境設定が大切と思いました。
 - ・健常者が当たり前(無意識)にやっていることも困難で、意識的にやることを強いられていることを理解し、安心して取り組めるよう支援しなくてはいけない。そのために色々な教材・教具を利用しながら進めることが大事だと思いました。
- わが子は専門学校生ですが、間もなく始まる就活に向けて、少しでも字を書く教材を利用してコンプレックスがとれたらと思います。

●教員 小学校

- ・支援の方法、いろいろわかりました。すぐやってみたいものがありました。
- ・一人ひとりの特性・原因を分析し、身近なところから教材教具の工夫をしていくことの大切さ、楽しさを感じました。
- ・書字に困難があると、書字のことばかりやりがちでしたが、感覚運動機能を十分に考えて、そちらの工夫が必要だとわかりました。
- ・教具の作り方が紹介されていてわかりやすいです。
- ・作業療法的視点（感覚運動面からのアプローチ）の大切さを感じました。
- ・ちょっとした工夫で意識しないでも（がんばりすぎないでも）出来るが増えるので、少しずつ取り入れていきたいと思いました。つい、できるようにさせたいと思って子どもたちに強く言ってしまう事があるので、体の“がんばっています”サインをよく見てあげるようにしたい。
- ・発達障がいのある子はもちろん、そうでない子にも生かすことが出来る教材教具もあると思いました（口の所に指を持っていく子が多いので、いすの下に工夫をしようか、本人たちとも話し合って対策を立てたいと思います。）
- ・専門的な事をわかりやすく教えていただけてありがたかったです。
- ・ちょっとした工夫で姿勢保持ができたり、鉛筆や定規・なわとびをうまく操作できたりするなど、子どもたちが疲れることなく体験できる事を学ばせていただきました。できたいという思いや達成感を持たせるためにも、環境を整えていくことも大事だと実感しました。
- ・感覚的な困難が学習に大きく影響しているのがわかりました。大きな、そして小さな感覚遊びも取り入れて通級でやっていきたいと思います。
- ・低緊張のトレーニングなど、実際の手だて（訓練）をもう少し教えていただけるともっと良かったと思う。
- ・子ども達のつまずいている所の運動機能にもとづいたところをわかりやすく話してくださりととても参考になりました。
- ・今まで作業療法は重度の子対象とと思っていましたが、通常の子にも十分使えるものばかりでとても良かったです。これで姿勢悪く叱られる子が減ってくれるとうれしいです。

●教員 中学生

- ・体の動き、安定させることの大切さがよくわかりました。
- ・学校関係者として、どうしても学習のみに目がいきがちですが、人の行動にかかわっての支援のヒントをいただきました。現場で生かしていきたいと思います。
- ・ただ頑張りなさいではなく、努力しやすいツールがあることが分かりました。中学生になっても姿勢や指の使い方など細かく見てあげなくてはいけないと強く感じました。
- ・感覚運動機能に応じた様々な教材教具を教えていただき本当にありがたかった。早速工夫していきたいと思った。
- ・体幹の保持を育て、支援することも重要なのだという事を学びました。

●教員 特別支援学校

- ・体を動かすための順序等、もっと詳しく話が聞きたいと思いました。
- ・作業の分析について理解が深まった。
- ・ちょっとした工夫でその子へのサポートが出来ることがよく分かりました。見えない“つまずき”に気付ける感覚が必要ですね。
- ・普段正しく座るように子ども達の注意してしまう事が多いのですが、座ってられるようにするには、という工夫はほとんどしていません。今後、環境を整えるという視点を持って工夫していこうと思います。
- ・その子に合った教材教具について、複数の目でていねいに見ることも大切。
- ・感覚統合的な観点がとても興味深く聞けました。

●教員 その他

- ・「成功体験を喜び合う」事の大切さ、心に残りました。
- ・具体的な用具の工夫、方法を紹介していただいととても勉強になりました。又、頭を柔らかくして支援方法を考えていかなければいけないと思いました。これからも支援をしていく中で、“成功体験”から意欲がわくような方法でやっていきたいと思います。

☆作業療法士 医療

- ・工夫の実際を知れて楽しかったです。もっと聞きたいと思いました。
- ・医療従事者以外の方たちにわかりやすくということでお話しされていたと思いますので、内容は理解しやすく、具体例はとても参考になりました。今回、医学的な観点からのお話（研修の主旨と異なると思いますが）は少なく、OTとしてそのあたりもいろいろ学びたいと思っていますので、先生がもう少し専門的な知識や技術に関して講演がされる機会がありましたら、ぜひまたお聞きしたいです。

☆作業療法士 療育

- ・行動を段階的にとらえて支援を考えていくことが大切だと感じました。

★その他

- ・現場でも取り入れたいことがあり、いいお話でした。（自立支援員、学校巡回）
- ・教材教具を利用して成功体験を積んでいくことが大切です。具体的でわかりやすかったです。（保健師）
- ・すぐに使えそうな教材の工夫が多く活かせそうです。（ST）
- ・子どもの努力を無駄にしないよう、こちらが工夫してやりやすくてきたらと思いました。（理学療法士）
- ・土台を安定させることの大切さがよくわかりました。
大阪市のHPもよく活用させていただいています。ありがとうございます。展示物も参考になりました。（臨床心理士）
- ・いろいろな事例を挙げて、OTさんの教材例をもう少し出してほしいと思いました。（ST）
- ・実際のお子さんの写真の、使用前使用後の姿勢がすごくわかりやすかったです。ハートリーフクッションは坐骨の下に入れて感覚を入力するために使うときいたのですが、骨盤の周辺をホールドするためにも使えるのですか？（療育施設の言語聴覚士）

【ワークショップについて】

◎保護者 会員

- ・細かいところを先生は観察されているなと思いました。
家庭で試せることを少しずつやってみたいと思います。
- ・問題となるところを詳しく話し合え、大変参考になりました。
- ・専門家の先生方の所見は大変きめ細かく多くのご指摘がありました。このようなワークショップに参加される先生の学校や支援機関なら本人や保護者が安心して生活できるのになあという気持ちでお話を聞きました。
- ・実際の資料をどのように分析していくか学ぶものが多かった。
- ・自分の子以外の事例を考えることはあまりないので、自分の子と比較して考えてしまいました。

◎保護者 その他

- ・山田先生のアドバイスはきめ細かく的確で、一つ一つ「本当にそうだなあー」とうなずいていました。
- ・専門的な事はわからないのですが、自分の子供と照らし合わせて聞きました。子どもがどこでつまずきどこで困っているのかをきちんと見極めてやることで親も子もずいぶん楽になるのだと思いました。

家庭でやれることはがんばっていこうと思いました。

- ・色々な職種の方と話し合いができて気づきがありました。
- ・ビデオ、資料を見て、知的遅れのない子の困難さが手に取るように分かりました。二次障害を起こさないよう、その子の特性をよくとらえ、自己肯定感を高め自信につながるよう、教材教具を利用しながら成長できるといいと思います。

●教員 幼稚園

- ・いろいろな立場の現場の方からお話をいただけて良かったです。

●教員 小学校

- ・皆さんと一緒に考えることは楽しかったです。いろいろな意見が聞けて良かったし勉強になりました。最後、事例のお子さんの保護者の方の質問良かったです。すぐ、上靴を脱いでしまう子がいます。足の刺激を求めているということかもしれないという事がわかりました。
- ・ビデオ資料から要因・支援方法を話し合うという方法は初めての体験でしたが、とても勉強になりました。子どもの見方、ということで今後役に立ちます。本を読んだり講演会を聴いたりするのもとても勉強になりますが、こうしていろいろな方と話し合うのも、たくさんの事を学ぶことができます。
- ・グループの人数は、6人程度が良いのでは。(1グループあたりの人数が多かった)
- ・具体的な話で頭に浮かぶ児童があり、とてもわかりやすかったです。
- ・ビデオや資料から考えられる仮説を出し合って、大変いいディスカッションができ、大変勉強になりました。
- ・その子(事例のお子さん)の困り感を見る手立てを考えることができました。
- ・子どもの様子やノートなどから読み取れるいろいろな情報をもとに、本人の困りがどこにあるのかをグループで話し合うのは良かったです。「なるほど、そういう見方もあるのか」という勉強になりました。
- ・実際の場面から、いろいろな視点で話ができ、視野が広がりました。
- ・子どものつまずきを分析することの重要性を感じ取りました。つまずきの原因を的確にとらえて、方法を考えていかななくてはいけないと思いました。
- ・実際にビデオや資料をもとに、みなさんで特徴を分析し、支援を考えていったワークショップはとてもわかりやすく、いい勉強になりました。事例とよく似た子が自校にも何人かいるので、今日みなさんから頂いた支援の方法を、ぜひ明日から実践してみたいと思いました。
- ・1人のお子さんを通してみんなで考えていく方法は、自主的な研修になり、とても役に立ちました。実際の教材を見せていただいたのもうれしかったです。
- ・お母さんが来て見えてびっくりしました。とてもすばらしかったです。

●教員 中学校

- ・複数での分析はとても多面的に具体的にできて良かったです。
- ・いろいろな見方、考え方が出来ることが分かったと同時に、できるだけ多くの人の目で見ることの大切さを学びました。全校をまき込んでいきたいです。
- ・実際のお子さんのケースから、どう分析し、支援を組んでいくのかがよく分かりとてもありがたかった。理論と実践をつなぐためのいい研修になった。

●教員 特別支援学校

- ・一人の子の事例でもいろいろなとらえ方があるという事が分かって楽しかったです。参考になる事がたくさんありました。
- ・1人で考えるよりも、多くの人たちと話し合うことの大切さを改めて感じました。

☆作業療法士 療育

- ・いろいろな立場の方とお話ができて、新鮮でした。
- ・教員、保護者の方と様々な意見交換ができて、とても勉強になりました。

★その他

- ・事例をビデオと紙面で提示していただいたので、討論しやすかった。(自立支援員、学校巡回)
- ・事例を通じて、グループで話すことでいろいろな意見が出て理解を深めることができ、先生の解説でより理解できました。理解ができれば対応策や支援方法がでてくるのがわかりました。(保健師)
- ・色々な職種や立場の方の意見や見方が聞けてよかったです。(ST)
- ・ほかの職種の参加者の方の視点が自分と異なる視点だったので、色々な視点から見ることができて勉強になりました。(療育施設の言語聴覚士)

【「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれる事やご意見ご感想について】

◎保護者 会員

- ・支援計画書を作ってほしい。
- ・地域差、学校差のない安定した支援が受けられるような体制を整えてほしいです。
- ・発達障害への社会の法的なサポートを強く望みます。

◎保護者 その他

- ・今後さらに全体の通級指導教室の学習レベルのアップをお願いしたいです。地域の格差があるので不安です。どの学校にいてもしっかりと授業が受けられるようにと願います。
- ・小中学生の支援は良くなっていますが青年期後からも長く生きていかななくてはいけないので、その時期も安心できる支援(就労、自立)を考えて具体化してほしい。

●教員 小学校

- ・このような勉強会があるときは、今後も学校に案内をいただきたいと思います。
- ・特別支援教育について、学校でも担任の教員だけでなく、どの先生方にもこういった講話・研修を受けていただいて、学校全体で進めていきたいです。
- ・山田先生のような実践家の先生のお話を今日のように聞きたい。視機能の事も取り上げてください。

●教員 中学校

- ・もっと医療関係と連携を取っていきたいです。頭の固い、古いタイプの管理職こそ、義務研修にすべきです。今だとしつけと障がいの区別がつかない人がいるのも現実です。
- ・特別支援コーディネーターの役割を、通常の指導を受け持ったままで上乗せするのではなく、それなりの時間的配慮がとられるようにしてほしい。情緒学級担任で、学級はりつき、毎月100時間以上の残業プラス土・日の部活動では、体を壊しそうです。体制として無理があり、名前だけになり心苦しいです。

●教員 特別支援学校

- ・山田先生・嶋谷先生ありがとうございました。お二人方のような考え方が持てるようになりたいと思うとともに、研修は積んでいかなければと思います。

●教員 その他

- ・反対カード・関連カードなど、幼児向けのものも、もっと市販されるようになってほしい。

★その他

- ・この教育は特に個々の子どもたちの特徴を尊重してより多面的に関わることが重要と考えます。その特徴がどのようなことであれば意識(意欲)をもってたとえ少しでも取り組んでくれるのかが、もう一つの入り口でもあると思います。(オプトメトリスト)



